

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19510247

研究課題名（和文）韓国軍のベトナム戦争参戦の記憶をめぐる韓越比較研究

研究課題名（英文）Comparative study of Korea and Vietnam on memories of the Korean military's participation during the Vietnam War

研究代表者

伊藤正子（ITO MASAKO）

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：20327993

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：ベトナム戦争 韓国軍 戦争の記憶 和解 NGO

1. 研究計画の概要

ベトナムでは、ベトナム戦争に勝利したことは現在の政権の正当性の根源であり、苦しい戦いを戦い抜いて輝かしい勝利を手にした過程こそが、現在のベトナムの公定記憶となっている。また米国に次ぎ多くの兵士を派遣した韓国では、ここ10年ほどの間に、ベトナム戦争に派遣されていた韓国軍が、多くの民間人虐殺事件をおこしていたことが報道されて、英雄物語として語られてきたベトナム戦争をめぐる記憶に大きな混乱が起こった。

本研究では、(1)ベトナム戦争をめぐる国家レベルの対応と戦争被害地の対応、また NGO の活動を対比させながら、戦争被害に対する謝罪と、和解の進展のあり方を検討する。(2)被害国と加害国における戦争をめぐる公定記憶と、公定記憶にならない記憶の交錯や、民主主義国家と記憶のあり方の多様性の関係について考察する。

2. 研究の進捗状況

韓国軍が駐屯していた地域は、ベトナム中部に3省1市（ビンディン省、クアンナム省、フーイェン省、ダナン市）あるが、2007年度から毎年一つずつ訪問し、地元での資料収集と生き残りの人々や、この問題の担当者である地元の省・県・村の幹部たちにインタビューを重ねてきた。これまで3省での調査を終えた。

ビンディン省では、県主催の追悼式にも参列することができ、地元の若い世代もまきこんで、積極的に記憶の継承が行われている様子を見ることができた。

クアンナム省では、韓国人の参戦兵士たち

が資金を出して建てた碑に刻まれた、ベトナム人が書いた詩の内容が国際問題化し、ベトナム側では内部で、国家と県・村レベルでの意見が対立、しかし、韓国国家からの圧力もあって、結局、虐殺を詠んだ詩碑にはフタがかぶせられて、「過去にフタをして未来に進もう」というベトナム国家のスローガンが貫徹され、真実は覆われた。一方で、韓国 NGO による生き残りの人たちに対する訪問活動が非常に活発に行われ、被害者のベトナム人の中には、歴史の真実は消せないという思いと同時に、韓国人に対する怒りが癒されるケースも出てきている。

フーイェン省は、他二省に比べて経済的に発展しておらず、この問題を記録に残そうというところまで行っていない。そのため、韓国の民間人側が、積極的に関わり、「越韓平和公園」を設立して、地元の人たちの歴史を残そうとしている。

また公文書館での資料収集は4回にわたって行い終了した。その他、ホーチミン市で活動する韓国人 NGO 関係者や、それを報道や映画製作で応援しているベトナム人のジャーナリストや映画監督のインタビューも行った。

韓国側では、韓国軍の参戦の問題に取り組んでいるナワウリという NGO 関係者、世論の分裂にも関わらず、果敢に「ごめんなさい、ベトナム」キャンペーンを指揮したジャーナリスト、NGO の精神的支柱になっている韓国現代史研究者などから聞き取りを行い、戦争博物館や平和博物館、古本屋等から必要資料を収集した。また参戦兵士からも話をきいた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

ベトナム側では、地元の県や村レベルで、国家の公式見解とは異なる素直な意見、対応をしてくれる複数の人と出会うことができたため、インタビューによる収穫が大きく、韓国では、図書館の資料や新聞の内容など、登録すれば、外国からでもダウンロードできるようになっているため、資料収集が進んだから。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、ベトナム側では残りのダナン市における現地調査を進める。ベトナム側での調査は、ハノイのベトナム人でもしばしば聞き取れないダナン周辺の中中部方言の聞き取りが必要なので、苦勞している。全て録音しているが、これを日本に留学中の同じ地方出身の留学生に謝金を払って、テープおこしをしてもらう予定である。韓国側では、参戦兵士への聞き取りを進める。特に、虐殺事件にかかわった過去を積極的に証言している数人から、直接話を聞く予定である。

研究成果は、最終的には一冊の著作として刊行したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

①伊藤正子

韓国軍のベトナム派兵をめぐる記憶の比較研究－ベトナムの非公定記憶を記憶する韓国 NGO－

韓国東南アジア学会・京都大学東南アジア研究所ジョイントシンポジウム

2009年6月19日

韓国晋州・慶尚大学